第３回柏崎市景観審議会議事録（概要）

１　日　　時　令和元(2019)年 7 月 30 日（火）　午後 2 時から 4 時

２　会　　場　柏崎市役所第二分館 2 階第 6 会議室

３　出 席 者　委　員　9 名

西村委員、倉知委員、加納委員、吉田委員、秋山委員、木村委員、
中村委員、布施委員、鈴木委員　　※欠席 1 名：会田委員

事務局　6 名

内藤都市整備部長、柳都市政策課長、元井係長、三井田主任、山田主事、
長谷川再任用

４　配布資料　・次第及び委員名簿

・座席表

・第 3 回柏崎市景観審議会説明資料

・事業峻別結果参考資料

５　概　　要

⑴開会

⑵部長挨拶

⑶委員挨拶

⑷定足数の報告

⑸議事「会長及び副会長の選出について」

委　員：推薦・自薦なし

事務局：会長に西村委員、副会長に吉田委員を提案

委　員：承認

《会長、副会長あいさつ》

⑹報告事項「平成 30(2018)年度の景観事業の取組について」

《以降、会長による議事進行》

会　長：議事に先立ち、景観審議会運営要領第 4 条第 2 項の規定に基づき、議事録署名委員に吉田委員を指名する。
事務局の報告を求める。

事務局:第 3 回柏崎市景観審議会説明資料により昨年度の景観事業の取組について説明。

Ａ委員：椎谷で開催したワークショップの結果はホームページで公表しているのか。

事務局：特定の地域でのワークショップであったため、ホームページでの公表はしていない。当初 4 回の計画では、景観形成支援事業の補助金を活用して何をするか、追加の 4 回では、事業峻別結果を踏まえて今後どのような方向性で地区の景観まちづくりを進めていくかを検討した。

Ａ委員：景観形成重点地区ニュースに「日本海パノラマと北国街道のまち椎谷」とあるがこれに関連して、補助金を取り入れて景観まちづくりをしていたのか。

事務局：椎谷地区は陣屋を中心にまちが形成された経緯があるので、陣屋を中心とした景観まちづくりを進めていくということで補助してきた。事業峻別により支援事業が廃止になったことを受け、民間の補助金に応募したが落選した。次回に向けて別の補助金を活用しつつ陣屋を中心とした景観まちづくりを続けていきたい。

Ｂ委員：追加で開催したワークショップで出た地元の意見を伺いたい。

事務局：事業峻別の結果を説明した際に、地元は残念な反面仕方がないという部分もあった。これからどのような方向性で景観まちづくりを進めるかという中で、陣屋を含め地域の歴史を今一度勉強する機会を設け、地元の郷土愛を深めるワークショップを開催した。

会　長：Ｂ委員、景観アドバイザーの関係で追加説明はあるか。

Ｂ委員：集合住宅の外壁改修については、住宅団地は同じような建物がたくさん並んでいるので、建物ごとに個性を出したほうが居住者も訪問者も分かりやすいと思った。景観上においても、同じものが並ぶよりバリエーションがあったほうが良いということでアドバイスをし、施主に配慮していただいた。民間の商業施設は色にこだわりがある場合が多いが、なるべく景観に沿うようにアドバイスをしている。たとえそれが取り入れられなかったとしても、アドバイスをし続けることが景観の意識を高め、文化を作ることになるのではないかということで、アドバイスをしている。それが功を奏しているかは分からないが、民間の業者から配慮していただけていると思う。

会　長：民間の景観配慮はお金がかかるのでアドバイザーの意見を全て取り入れるのは難しい。色のコントロールや植栽など、アドバイスが取り入れられたものはどのようなアドバイスをしたか。

Ｂ委員：色については工事のタイミングがあるので塗料を発注した後の変更は難しいが、発注前であれば変更可能だろうということでアドバイスをしている。業者に求めすぎると費用が掛かるが、色合いを変える程度であれば可能だろうということで積極的にアドバイスをしている。植栽については、全く無いところに植栽をして欲しいと言うと費用が多く掛かるので、最低限必要なところにはアドバイスをするようにしている。

会　長：先ほどの喫茶店の例はどうか。

Ｂ委員：これはアドバイザーの審査にかかるのは広告塔のみになっている。この植栽はアドバイスというよりは施主が自主的にしたものである。

会　長：他に意見などあるか。

委　員：意見無し

⑺報告事項「事業峻別経過と今年度以降の景観事業の取組について」

会　長：事務局の報告を求める。

事務局：第 3 回柏崎市景観審議会説明資料により事業峻別経過と今年度以降の取組について説明。

会　長：予算はわずかではあるが残っていると思わないといけないかもしれない。最初は全部廃止になることも考えられたが、少し残ったという状況。

Ｂ委員：最後のスライドに次期総合計画策定時とあるが、いつ頃になるか。

事務局：現在第 5 次総合計画ということで、平成 29(2017)年から 10 年間の計画が立てられている。前期は平成 29(2017)年から 5 年間、後期は令和 4(2022) 年から 5 年間。計画の前期が終わるまでに見直し、後期の計画を立てるので、その準備を含めると実際は来年後半から再来年には見直しの作業に入らないと後期の計画に間に合わない。動きとしては、来年から再来年にかけて作業を行う予定である。

Ｂ委員：ここでいう次期総合計画は第 5 次総合計画の後期ということでよいか。

事務局：そのとおりである。

Ｂ委員：今後の方針をどのように決めていくかまだ分からないと思うが、景観行政をどう位置付けていくかを決めていくということでよいか。

事務局：総合計画の中で景観事業を進めていくことは決めてあるが、市長の事業峻別により事業が縮小されている。事業峻別で、景観の重要性は理解するが財源のない中で何を優先するかということでこのような結論になったので、それを踏まえて景観事業を今後どのような方向性にするかを議論していかないといけないと思っている。

Ｂ委員：事業峻別の結果について、現状制度のままというのは景観計画及び景観条例は維持するということでいいのか。それとも当面などの条件が付いているのか。

事務局：後期の計画を策定するまでは現状維持としていきたい。県とも話をしていく中で、県は景観事業を進めていく立場であることから、今の枠組みは残したまま進めてもらいたいと言われた。

会　長：柏崎市がやろうとしていた景観行政の大きな枠組みと予算が無くなり、景観計画及び景観条例というコアの部分は温存されているが、将来の総合計画で否定されたら無くなる。それでもまだ継続できるのか、柏崎全体のまちづくりも含めて議論がされていくと思う。地域住民としての意見を伺いたい。Ｃ委員はどうか。

Ｃ委員：よく金沢に仕事で行くが、金沢は景観まちづくりについて熱心に勉強された場所だと感じる。駅を降りてすぐの門は観光地のためのイメージアップなのか奇抜なイメージなのか、賛否はいろいろあると思うが、そういうことをやれるまちは活気があると思う。それと比べると柏崎は少し寂しく感じる。景観を考えたときに地域全体にするかエリア限定にするかを考える時代に来ている。明るい色がダメ、ではなくもう少し奇抜な色でもいいと思う。柏崎で私が一番良い、あか抜

けていると思う建物は北条の小中学校。柏崎は少し閉鎖的な部分があると思うので、あか抜けた建物や色使いがないとなかなか活気が出てこないと思う。

会　長：アドバイザー制度も少し変わりそうだが、その点でＢ委員何かあるか。

Ｂ委員：大きく変わるのは回数が減るところ。今まで毎月１回程度、足りないときは２回開催し、昨年度は10回開催したものが、予算上４回に減った。基準に適合していてアドバイスがないときはいいが、アドバイザー相談会にかけるべき案件も少なからずある。年間を通じて申請は出てくるので、４回だけとなるとアドバイザー相談会で内容を確認して議論してということがなかなかできなくなる。平均しても３か月に１回の開催になるので、アドバイザーの返答を待たないと工事が進められないことを考えると、実際の工事に支障が出る。そのため４回でやるのは少し大変だというのが正直なところである。ただ事務局から、届出提出の多い時期に合わせて開催しようということになり、今のところ４回でおさまるかなという読みである。場合によってはメールで審議することも考えている。

会　長：Ｄ委員、観光の面で何か意見はあるか。

Ｄ委員：景観総合案内板を活用してまちあるきを行っている。小路を通るときに小路の名前を言い、再確認で景観総合案内板を活用している。新しいものよりは、米山や八坂神社のような古くからあるものを皆様と歩いているので、そういったものを残してつなげていきたいと思う。最近では小学校の先生が景観に目を向けるようになり、案内してほしいという依頼が来るので、率先して一緒に歩いている。あとは、シティーセールスでダムカードや岬めぐりなど、今まで先人が伝えてきた景観を市外の人にもいろいろな面で発信してもらっている。来てもらうからには柏崎にお金を落としてほしいと思うが、花火や松雲山荘などで人が来てくれたとしても宿泊する場所が無いのが現状である。

会　長：Ｅ委員、地域振興局の視点で今回の景観の予算を削った点についてはどう考えるか。

Ｅ委員：市でいろいろな経緯があって予算を削ったことに対して県として意見を言う立場ではない。ただ、景観計画や景観条例を作って景観まちづくりをしようと進めてきた経緯もあるので、やり方を工夫しながら考え方や精神を継続していくことが大事だと思う。

会　長：意見交換の領域に入っている気がするので、意見交換に入りたいがよろしいか。

委　員：異議なし

⑻意見交換「柏崎市における今後の景観形成について」

会　長：最後に、事業峻別の結果を受けてこれからの柏崎の景観についてどうあるべきか、それぞれの意見を伺うべく事務局から事前にお願いがあった。Ｆ委員からお願いしたい。

Ｆ委員：柏崎の魅力をネットで検索すると、海や棚田などほとんどが自然で、建物がなか

なか出てこない。歴史的な建物や旧跡で調べると椎谷の陣屋跡や荻ノ島の環状集落が出てくるので、その辺は柏崎の貴重な財産だと思う。また、私は別俣地区に住んでいるが、そこは非常に高齢化が進んでいる地域である。別俣地区でどうしたらコミュニティが形成できるかを若い人たちで考えるべく、別俣地区の未来を考える会の第 1 回を開催した。その時に自然がきれいであるという意見が出た。いいところがたくさんあるので、それを活かして景観を含めてやれることをしようという会合を月 2 回開催することになった。私の個人的な考えだが、景観にもつながると思うが、まず自分の地区から自分の力でできるところからやってみてだめなところは市にお願いすると、そういう方向で皆と話せたらと思っている。自然と建物が大事なポイントになると思うので、それをうまくミックスした景観づくりをしていただきたい。

会　長：別俣地区では何ができそうか。

Ｆ委員：木造の小学校校舎があって、地区で食堂をやったり子供を中心とした行事をしていたり、また、周りが公園になっているので我々の手で整備してお客さんから来てもらったりしている。景観とイコールではないかもしれないが、我々の地区では木造校舎がコミセンの次に愛されている場所になっている。

Ｇ委員：観光という立場から見ると、宿が無くなって泊まる場所が無いという現実があるが、新しく施設を作れるかというとそうではない。その中でも、田舎といわれる地域、例えば小清水にカフェができるなど、各地域で頑張っている方をフィーチャーして、そういう方とうまく連携してもらえるといいと思う。アドバイザー相談会の回数が減ったことにより予算はどのくらい減ったのか。

事務局：昨年度と比べて 3 割程度になった。

Ｇ委員：経費の内訳にはどのようなものがあるか。

事務局：アドバイザーの謝礼や交通費相当額分がある。市長事業峻別結果に景観行政の重要性は認識していると記載があるが、荻ノ島の茅葺屋根を守ろうという中で、後継者がいないところに補助金出すのはどうなのかと考えており、厳しい状況だった。

Ｇ委員：県外の人は割と荻ノ島に泊まりに行っている。柏崎に来て喜ぶより、もしかしたら荻ノ島へ行って喜ぶ方もいるかもしれない。

事務局：隈研吾さんの陽の楽家をもっと売り込めばいいのではないかという意見ももちろん分かるが、事業峻別が結果である。

Ｇ委員：荻ノ島は観光としてもいいところなので少し残念。

Ｄ委員：柏崎に観光に来たのに湯沢など市外に泊まり行かれるよりは、貞観園など見るものがたくさんあるので荻ノ島の茅葺の宿に泊まっていただきたい。茅葺だけにこだわるのではなく、昔のものを残しながら何かしてもらえたらいいと思う。そうすることで若い人もまた動いてくれると思う。

会　長：高柳の荻ノ島や周辺の村々は大事な景観を持っている。景観と一言でまとめていいのか分からないが、住まう環境としての魅力もある。実際に住んでみると、特に冬はとても大変なのだろうが、魅力的である。外国人も好きそうだ。

Ｃ委員：集合住宅の妻側の色を変えたのは確かに良いと思うが、欲を言えばベランダも色を変えると良かったと思う。残念なのは、昔柏崎高校の入り口の角にあった第四銀行の建物が取り壊されてしまったこと。あれは本当にもったいないと思っている。柏崎はあまりそういうものを大事にしないのが残念。かといって新しいものを作っても中途半端なものが多い。東電が発電所を作って各方面から人が来て生活しているが、その人たちが地元から友達を呼んだときに、柏崎を案内して見せる場所がないのが残念という声をよく耳にする。景観とは見せるものだと考えるが、柏崎にはそれがなかなかないので残念。良いものがあっても壊されるのは好ましくない。景観に取り組むのが遅すぎたと感じる。由緒あるものが皆壊されるのがとても残念。

会　長：地震で壊れたものではあるが柏崎駅のそばにあった赤レンガもそうだ。残すかどうか、大きな議論になっている中で地震にあって無くなってしまい残念だった。

Ａ委員：景観とは人を幸せにする、気分の良くなる、住み心地がいいという考え方もできると思う。柏崎は住みよいまちになっているらしいので、何が要因で住みよさが上がったのかを分析することが必要である。住みよいまちというランキングで、何がその上位だったのかを分析し、それに景観を加えるのが今後の方向としては優先順位が高い。当然やるには予算が必要だが、予算のない中で民間にゆだねるのか市でやるのか、何も見えなくて漠然としすぎている。あとは、駅前を緑の多い、人の憩いの場となるようにしていくといいと思う。私は夢の森公園を管理している。公園に来る人を増やすには、見た目を良くする必要がある。景観計画では色彩を派手にしないことになっているが、それで人が集まるのかどうかは考えないといけない。話が戻るが、住みよいまちのランキングが上がった一つに北条小中学校の校舎があると思う。おそらくあそこで過ごした生徒たちはあの学校を嬉しがったであろう。色合いの何もない校舎よりも、木造の校舎にいたほうが生徒たちの印象に残って、もう一度戻ってこようと思ってもらえると思う。長岡には色彩の豊かなアパートがたくさんあり、そこに住んでいる人も嬉しかろうと思う。色彩をおとなしくすることが大事なのかを、考える必要がある。

Ｈ委員：景観は見て癒されたりほっとしたりするものだと考えて、荻ノ島や椎谷が柏崎らしくて大事だということで重点地区になっていると思う。私は柏崎のまちなかで育っているので柏崎といえば海というイメージで、柏崎と茅葺が結びつかないところがある。もちろん遊びに行くと綺麗な景色だと思うが、自分自身はアパートが乱立していたり駅前のアーケードだったりのほうが、自分の育ってきた景色だと思うとほっとする。人によって良いと思うものは違うと思う。また、車

通勤から徒歩通勤に変わったことで会社の脇の遊歩道やエネルギーホール周辺の街路樹などは緑が多く、歩いていて心地良いと感じる。届出制度は、制度があるだけでも柏崎に景観があると認識できるので、続けたほうが良いと思う。景観に関わっていない人がどれだけ景観制度について知っているのか、どう思っているのかを知りたい。

Ｅ委員：私は、景観は自然環境や建造物の保全と計画的な土地利用や開発という２つのものがあると思う。自然環境や建造物の保全のためには公的なものが入らないと難しいが、いつまでも補助金を続けていくわけにはいかないので、継続できる仕組みが必要。もう一方は民間の力が入らないと進まないと思う。民間をいかに誘導していくのか、誘導していく中でゾーニングやまちをどうしていくのかをすりあわせながら、民間を入れつつ開発を進めていくことで統一感のあるまちづくりができると思う。その中で審議会やアドバイザーなどいろいろ手法があるが、予算が削られる中でどのような手法で柏崎の景観を良くしていくかを市でしっかりと考えてもらいたい。

会　長：県の持つ手法で何か使えそうなものはあるか。

Ｅ委員：何か県としてこれが手伝えるというものがあるかどうかは今すぐには答えられない。具体的に市からこういうものを進めたいと相談があれば、担当の部署と相談しながら協力していけると思う。

Ｂ委員：話が多岐に及んできたが３つほどお話しする。１つ目は柏崎のイメージとして海や自然が上位に来ること。その魅力はあると感じる一方で残念なのがまちなかの魅力を感じる人が少ないこと。そこを作る必要があるのではないか。一言でいうと都市景観。建物、街路を含めた公共空間をしっかりと作って、柏崎には規模が小さくてもとてもいい都市景観があるということを発信すべきだと強く思う。Ｄ委員も言っていた、観光資源があっても市内に泊まらないというのは宿が無いだけはなく、夜の楽しみが無いのも理由の一つだと思う。松雲山荘のライトアップは夜だが、海や米山は明るい時間に楽しむもので、夜どこへ泊まろうかと考えるともっと楽しいところに泊まると思うので、夜にまちを歩きたいと思える都市景観が必要だと思う。２つ目は、事業峻別の市長評価結果の指示内容を見ると、重点地区の取組は地域活性化の意味合いが強いとあるが、その認識がこちらと違うと考える。昨年度卒論で景観計画について調べた学生がいて、その発表会の際にいろいろなコメントをいただいた。例えば、地域コミュニティをもう一度活性化するときに、コミュニティが元気になる補助金を出しても難しいが、地域にある陣屋跡やカザテのような自分の町にはこういうものがあると思えるものに対して、それをどうしていこうかと意見を言う集まりを作ることでコミュニティが活性化したり強固になったり、あるいは若い人が入ってくるきかっけになったりするというものがある。景観だけを考えるのではなく、景観をやること

で地域コミュニティが活性化し、そうすることでさらに景観もよくなるというサイクルがあると思う。できることならこの認識が広まるといいと思う。3つ目は、景観計画や条例に何が書いてあるのかを市民はあまり知らないと思う。少なくとも景観計画や条例があって、柏崎の景観を良くしていこうというメッセージは伝わっているはず。総合計画に向けていろいろな検討をしないといけないが、それまでの間に景観に対する市民意識がどうなっているのかをもう一度確認することが必要だと思う。

会　長：皆様の意見を聞きながら、景観とは何か、考え方やイメージが皆それぞれ違っていると感じた。私は、自然の姿も建物が作り出す姿も景観だと思うが、人の活動が作り出す姿も景観だと思う。先ほど景観とは違うけど活動していると言っていたが、そういう活動をしている姿や場面も外側から見ると景観だと思う。柏崎の人が生き生きと活動している姿を改めて作り出すのが大切である。お金がないときに一番強いのは大学。お金が無いときは、絶好のチャンスかもしれない。活動の場を許していただければいろいろな手立てで活動を起こすことができるかと思う。柏崎のまちを少しにぎやかにしていく、そして住民に住んでいてよかったと思ってもらうためにも、若い人たちが力を与えてくれるので、我々大学に籍を置いている者としてもう少し積極的に動いていくことが必要だと思う。これから総合計画でどのような位置付けになるか分からないが、機会を見つけて市役所の人とも相談しつつお金のかからない方法で活動を起こしていくことで、皆がハッピーになれる状況を作っていければ良いと思う。

景観は物が作るものばかりではなく、我々、そして住民が作る活動も景観であるということを心にとめて、それに向かって何か手立てができないか考えたい。

Ｂ委員：景観から話がずれるかもしれないが、地元の大学として、柏崎の人に工科大学にどのような学生がいて何をしているのかをもう少し知っていただきたい気持ちもあり、いろいろな機会を使って学生をまちに出しだしたり情報発信をしたりしてきたつもりである。なので、景観についても何かやっていけたらと思う。学生と一緒に何かすることが出てくるかと思うので、温かい目で見ながら協力していただけたらと思う。

⑼閉会